地域を支える高齢者福祉施設・社会福祉法人と都民を結ぶ

広報誌

アクティブ福祉 vol.40 2020.2

社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

目　次

P6　新時代旋風
P7　つなひろ実践報告会
P8　ブロック活動だより（城北ブロック）
P9　専門委員会リレー（災害対策検討委員会）
P10　養護分科会トピックス
P11　軽費分科会トピックス
P12　センター分科会トピックス
P13　東京ケアリーダーズ活動紹介
P14　職員研修委員会トピックス
P15　私の心に残るエピソード

裏表紙　「東京の介護ってすばらしい！グランプリ」

P2

大都市東京の現状と
介護現場の未来

P4

東京ケアリーダーズが行く！
うわさの施設 その7
「その人らしく」を支援する“ナラティブ・モデル”～１０２歳のチャレンジ～

Facebook
更新中!

高齢協
ウェブサイト

特集　大都市東京の現状と介護現場の未来

前号では介護保険制度の現状と今後の課題について、鏡 諭氏（淑徳大学教授）と園田 修光氏（全国老人福祉施設協議会（以下、全老施協）常任理事）にお話しいただきました。

今号では、大都市東京の介護現場を取り巻く現状と少し先の未来について、園田氏、田中雅英氏（東京都高齢者福祉施設協議会（以下、高齢協）副会長 博水の郷 施設長）、中村 綾里氏（東京ケアリーダーズ、ひのでホーム介護職員）にお話しいただきました。

聞き手：高齢協　副会長兼情報・広報室長　水野敬生

大都市東京の介護人材の状況　―増加する要介護者に対する供給の不足―

田中　東京都で特に介護人材が不足する要因は主に三つです。一つ目は、介護報酬が抑制傾向で、社会から介護業界の安定性や将来性が疑問視されていることです。

二つ目は、介護福祉士国家試験の受験生が激減していることです。理由は、国家試験を受ける前に、経験３年に加えて、実務者研修を450 時間以上受けることが義務化されたからです。三つ目は、都内は職業の選択肢が多く、そもそも介護業界の志望者が少ないことです。令和元年１１月の介護サービスの有効求人倍率は都内全体では７～８倍です。23 区は特に厳しく、渋谷のハローワークでは約 15 倍、飯田橋では約 42 倍、品川では約 82 倍にもなります。

中村　現場では人手不足で休みがとりづらく、有給取得も難しい、また、それが残業にもつながりワークライフバランスがとりづらいという声もあります。

園田　地方では人口は減少傾向で、人口が増加する東京都とは状況が異なります。2040 年までに介護を必要とする方が爆発的に増え、地方と同じレベルで議論することは難しいでしょう。今なお多い待機者に対して東京都は施設を作って対応しようとしていますが、職員がいなければ施設は稼働しません。それを補う方策はまだ見えていません。現状の理解を深め、東京都なりの特別な施策を打つ必要があります。

全老施協でも、私は全国一律の制度は限界があると話しました。次の介護保険制度改定でもそのような案は出てくるのではないでしょうか。

田中　有識者と話をすると、最後は介護保険制度の運営について、国から東京都に大幅な権限移譲や事務移管をするしかないのではないか？となります。東京都は、日本の縮図のようなものです。23 区、26 市、奥多摩地域、島しょ部まであり、介護報酬の地域加算の地域区分では１級地からその他地域まで８区分がすべて網羅されています。23 区内だけでも地域により家賃も人件費も大きく異なり、１級地として、一括りにすることには無理があります。国にはこうした地域格差の調整はむずかしいのではないでしょうか。

現場からの情報発信にこそ大きな意義

園田修光氏（全老施協）

―― 高齢協では若手介護福祉士のイメージアップのためのユニット「東京ケアリーダーズ」を結成しました。中村さんはその第一期メンバーですが、活動の感想をお願いします。

中村　現場で働く職員が介護の魅力を伝えていますが、活動を通じてはじめて自分の感じる魅力を再認識して言葉にして発信できたことは、自身にも貴重な機会でした。活動を通じて自分たちの成長も感じます。

園田　若い方は高齢者とのコミュニケーションもうまく、仕事そのものは楽しんでいる方が多い印象です。しかし、業界の外部から見ると介護の仕事が大変そうという認識が今もあることは否めません。ですから、現場の若者が新しい挑戦を

していることをより強く発信することが大切です。ケアリーダーズの取り組みはそういうものだと感じました。

私の施設では SNS で職員が日々の楽しさを発信しており、それにより多くの就職希望者が集まりました。現場の職員が発信することは多大な効果を生む例だと思います。

田中　ホームページ上で、地域貢献＝福祉活動を行っているなどの情報を発信することで、採用につながるケースもありますね。たとえば、子ども食堂や買い物･通院支援、一人暮らしの高齢者の見守りなどです。つまり、福祉を実践したい人をターゲットにする。

持続可能なサービス提供をするために

中村綾里氏（ひのでホーム）

――人材不足の対応策としてロボットや ICT の活用が提起されていますが、現場での活用はどうですか。

中村　腰痛により離職するケースがありましたが、リフトの導入で腰痛予防につながりました。移乗に割かれる人数も減って負担減にもなり、空いた時間はご利用者との関わりなど別のことに使えます。導入当初は慣れるまで時間がかかりましたが、馴染めばとても便利なので、導入も進めていきたいです。

――サービス提供を持続するために必要と思うことについて、お聞かせください。

中村　給与が上がってほしいと思います。また、人材が欲しいです。

田中　人材が少ないと定着も難しいです。人がいないと、休みが取れない、残業が増える、実践研究ができない、研修にも行けませんから。人材の確保が大前提で、それが質の向上につながると思います。

田中雅英氏（博水の郷）

園田　介護福祉士の資格を取得して現場で働く人は 5 割程度と言われています。そうでない方は別の仕事をしていたり、家庭に入ったりしています。そうした方が介護業界に戻って来られる支援制度が必要です。

――中村さんがこれまで続けられた理由についてお聞かせください。

中村　同世代が施設に多く、相談しやすく働きやすい環境が大きいです。また、例えば胃ろうの方の食事希望があり、チームで連携してそれが実現できた時には、ご利用者の人生をよりよくできて、その先の可能性を感じられたりして、楽しさややりがいになります。

園田　施設では胃ろうを外す努力をしていますね。それは介護現場がみんなで努力してその人らしい生き方の助けをしているということです。病気の治療を行う医療と異なり、介護は生活を見るもので、長いスパンにわたります。

医療費が 40 兆円と言われますが、介護費は 10 兆円程度です。長いスパンを支えることを重視して、その差を近づけていかなくてはいけませんね。

――今後の意気込みや現場で働く方へのエールをお願いします。

中村　人材不足で大変な面もありますが、それぞれの感じるやりがいや魅力をそれぞれが伝えていけるようにすることで、人も集まると思います。大変だとは思いますが、力を合わせて取り組めればと思います。

園田　介護の現場ではご利用者の尊厳を守ることがよく言われますが、そのためには働く方の尊厳を守らなければいけません。笑顔になれるような職場でなければよい介護は提供できません。また、制度は堅苦しいものに感じられますが、その原点は楽しく働ける職場を作るためのものです。人と人とのコミュニケーションこそが生活を成り立たせます。それにより笑顔が生まれる場所にしていきましょう。

左から田中氏、中村氏、園田氏、水野副会長兼情報・広報室長

東京ケアリーダーズが行く！ うわさの施設

東京都高齢者福祉施設協議会の数ある会員（約１２００施設・事業所）のうち、表彰や推薦など、名誉ある経験をもつ施設を紹介するコーナー。毎回‘うわさ’の施設を東京ケアリーダーズが訪問し、お話を伺います。

2019年開催　第14回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉 in 東京‘19」優秀賞

その７

社会福祉法人恵比寿会　特別養護老人ホーム　フェローホームズ仲間の家

「その人らしく」を支援する“ナラティブ・モデル”～102歳のチャレンジ～

右から森山理事長、新副施設長、赤松さん、佐藤さん、広瀬

法人理念に基づいた施設ビジョン「365日、わくわくいきいき誰でも笑顔に誰でも仲間に馴れる家づくりをします」を実現させるため、その人らしさを支援する取り組みを行ったフェローホームズ仲間の家は「アクティブ福祉 in ‘19」で優秀賞を獲得しました。

今回は、発表者である佐藤絵里香さん（生活相談員）と赤松鈴二さんさん（介護職員）にお話を伺いました。

研究の概要

課題　施設ビジョンにもとづき、ご本人が叶えたい想いを見つけだして実現すること

対策　ナラティブ・モデルに沿った「人生のあゆみシート」と「私の気持ちシート」を作成

取組　ご家族と密に連携し協力を得ることと多職種間での情報共有

結果　希望されていたうどん打ちの実施。ご本人・ご家族・施設全体で楽しめて職員のモチベーション向上にもつながった

――研究のきっかけを教えて下さい

佐藤　法人理念「ひとつは全てのために、全てはひとつのために」に基づいた施設ビジョン「365日、わくわくいきいき誰でも笑顔に誰でも仲間に馴れる家づくりをします」の実現が目標にありました。その中で、ご本人やご家族が話してくださることや、スタッフが関わる中で感じることから、ご本人が叶えたい想いを見つけ出して実現しようと思ったことがきっかけです。対象となった方は当時102歳でしたが、ご家庭にいらっしゃる頃、うどんを打っていたという話を頂き、取り組みをスタートしました。

――取り組みの流れをお聞かせください。

佐藤　目標の実現のための前提として、医師・看護師・機能訓練指導員・栄養士と連携して普段の生活を安定させることからスタートしました。ご家族にもご利用者を支えるチームの一員として入っていただき、協力して頂きました。

――取り組みの中で工夫された点はありますか。

佐藤　できる限りご家族と多職種が直接顔を合わせてお話しして課題を共有しました。また、ご利用者の想いを尊重し対話を通じて意欲や主体性、自己肯定感を取り戻すナラティブ・モデルに基づき、「人生のあゆみシート」と「私の気持ちシート」をご本人、ご家族の協力を得て作成しました。

――それぞれのシートはどのような項目で構成されていますか

人生年表や好きな事や嫌いな事、楽しさや悲しさを感じること、やりたいこと、ターミナルや死後の願いなどです。パーソンセンタードケアに基づいています。

――うどん打ちをするまでに苦労されたことはありますか。

佐藤　100歳でご入所された際は、環境の変化に対する不安や家族と離れた寂しさから、軽い拒否反応がありました。

赤松　気が強く筋の通った性格も要因でしたが、馴れてくるととても話しやすく、感謝も伝えてくださる方でした。

佐藤　馴れてもらえたのは話しやすいしゃべり方など、介護職としての赤松さんの力量も大きかったですね。

赤松　計画を進めていた際に、ご本人が肺炎で入院され一時中断するトラブルもありました。それまではゆっくりと準備していたのですが、退院時には食事量や歩行能力などの生活レベルが下がってしまっていて、もしかしたらということもあって、スピードを速めて準備を進めました。また、ご家族もさらに協力的になってくれました。

――うどん打ちの当日の様子とその後の感想をお聞かせください。

佐藤　ご家族と職員とともにうどんを打ち他のご利用者にもうどんをふるまって、ちょっとしたお祭りのように施設全体で楽しめました。ご本人もご家族も満足いただけた様子でしたし、職員もこの達成感をきっかけに前向きな気持ちになれたように感じました。

――話を伺っていて、ご家族も多職種連携チームも高いモチベーションを保っていらしたと感じましたが、それを保つためにどのような工夫をされましたか。

佐藤　モチベーションはどうしても人それぞれ差がありますが、強い人が少しずつ周囲の方を巻き込んでいくことを心がけました。日常で小さい事でも利用者の望みを叶え、それを積み重ねていくことが大切だと思います。

赤松　そうしたところから多職種で何気ない話をするきっかけになり、チームで取り組むことにつながりましたね。

――受賞後の感想と周囲の反応をお聞かせください。

佐藤　当日、私たち自身は受賞すると思ってなかったので、驚きました。取り組みを研究としてまとめる際には多くの方にアドバイスをもらえて、それが結果になったことをうれしく思いますし、自信がつきました。

赤松　上司には受賞後に、「受賞できると思っていたよ」と言っていただきました。また、広報紙でご覧になったご家族から声をかけていただくこともありました。

――今後の目標をお聞かせください。

赤松　うどん打ちというのは珍しいご希望だったかもしれませんが、そういった望みも実現できるようにしたいと思います。

佐藤　施設の理念・ビジョンに基づき、ご利用者の日々の生活を安定させたうえで、そこにその方らしさを上乗せできるような、ご利用者を中心とした取り組みをしていきたいと思います。今回の成功体験を次に生かしていきたいです。

――施設理念とナラティブ・モデルに沿って利用者のやりたいことを引き出すとてもよい事例だと感じました。各職員のモチベーションをあげて利用者の生活を支えることは介護業界全体の質の向上につながると思います。福祉の魅力が現れている研究だと感じましたので、私自身の今後の介護と発信に活かしていきたいと思います。本日はありがとうございました。

社会福祉法人恵比寿会　特別養護老人ホーム　フェローホームズ仲間の家

所在地：〒157-8575 世田谷区砧3丁目9番11号　TEL: 03-3416-3164　FAX: 03-3416-3494

■取　材　東京都高齢者福祉施設協議会　東京ケアリーダーズ
広瀬　史夏（白十字ホーム）

■記録・編集　東京新聞　木下聡文

新時代旋風

新時代の高齢福祉デザイン検討委員会の新たな取り組み

社会福祉法人 積善会　長渕園　施設長
川口（かわぐち）　睦弘（よしひろ）

新時代の高齢者福祉デザイン検討委員会（以下、新時代委員会）として情報交換会を実施しました

新時代委員会の今年度、分担活動の一つに独自企画の研修会があります。委員会の中で情報収集を行い、共有（委員の学びの機会）する研修会です。テーマは、「外国人受け入れに関する情報交換会」を開催しました。既に受け入れを行っている法人、これから受け入れを検討している法人等ありますが、適正に受け入れを行うために注意すべき点や制度の理解、また実際に受け入れを行っている施設から受け入れに至った経緯や受け入れに掛かる費用、雇用に関する事、生活支援に関する事等について情報交換を行う事で、様々な学びとなる機会となりました。

研修会を開催するにあたり、人材対策委員会から大堀施設長（社会福祉法人一石会大洋園）のご協力を頂きました。今度は新時代委員会から人材対策委員会や様々な委員会に機会があればお手伝いさせて頂き、高齢協の組織強化に繋がる活動となる委員会を目指します。

今後の企画について

経営・組織・広報・世代交代・地域貢献等について、異業種がどのように考え、どのような活動を行っているのか、事業継続に必要な取り組みに視点を置き、「異業種ならではの経験や発想」から幅広い学びの機会となる研修会を企画したいと思います。

新時代の高齢者福祉デザイン検討委員会とは・・・

協議会を担う次世代の育成をとおして、新時代の高齢者福祉・介護に対する提言や提案の実施に加えて、協議会活動の活性化を目指しています。（委員要件は 50 歳以下）。

現在委員を募集しております。ご興味のある方は事務局までご連絡ください。

だれもが安心して暮らせるために地域でできること

つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO 2019 実践報告会

令和２年１月１０日（金）に標記報告会を開催しました。つなひろは東京の高齢者福祉施設がお互いに協力しながら、地域に寄り添うためのイベントや交流会などを各地で一斉に行うキャンペーンで、今回の報告会ではキャンペーンに参加いただいた施設・事業所に取組みの発表をしていただきました。当日は文京学院大学の中島先生に進行をお願いし、約 70 名の方に参加いただき、昨年を上回る盛り上がりを見せました。

４つの事例発表では具体的な取り組み内容や、取り組みを始めるきっかけ、そして地域とつながり、ひろげていくための様々な工夫などをお話いただきました。また中島先生からは地域で取り組むためのポイントを 10 個にまとめて説明いただきました。参加された方々にとっても今後の取り組みに活かせるヒントが数多くあったかと思います。

報告会後半のグループワークでは様々な立場の参加者が積極的に情報交換を行い、共通した課題があったり、互いに刺激になったりと非常に有意義な実践報告会となったと思います。

つながれひろがれちいきの輪キャンペーン事業を通し「多様なつながりを持もって大きく広がり、地域でこぼれ落ちる人がないよう、誰もが安心して暮らせるまちづくり」に貢献していければと思います。

報告会の様子

次回大会（アクティブ福祉 in 東京’20）については予定が決まり次第ご案内いたします。

ブロック活動だより 第3回

城北ブロック

社会福祉法人千葉育美会
特別養護老人ホーム　浮間こひつじ園
施設長　**秋山　正芳**

城北ブロックは板橋区、豊島区、文京区、北区の４区、106 事業所において現在構成されております。

ブロック会としては年３回を予定しており、ブロック会では各区の代表者が集まり、課題の共有やその中で城北ブロック全体が共有できる勉強会を開催したいと考えておりました。

そこで令和元年 12 月２日に「医療・介護連携における ICT」活用の問題点」（個人情報保護法の関連法規の側面から考える）と題して、地域ブロック会協働活動助成事業の支援を頂き、開催をさせていただきました。

今後、医療と介護の連携や多職種の連携を進める上で、個人情報の共有方法が問題となることが予想されます。クラウドによる電子化情報か紙面によるアナログ情報にしても行政の指導をそのまま実践している状況です。本来の法律の趣旨や対処方法を学ぶため、医療介護に精通されている弁護士の先生２名様と、システムを構築され豊島区で実際に運用されている組織の理事の方に講演をしていただきました。

皆様、時期的にもお忙しい中でしたが、特養分科会からだけでなく、センター分科会等の方にも参加いただきました。

個人情報としての捉え方の基本から実際に問題となったケースのお話など有意義な講演会となったと思います。私が準備等に慣れない中、諸先輩の皆様方にご協力いただき、無事開催をすることができました。

今後も城北ブロックとして情報共有とともに、様々な課題解決や施設整備の問題、介護保険制度改正に向けた提案ができていければと考えております。

7回目
災害対策
検討委員会

専門委員会リレートーク！

東京都高齢者福祉施設協議会内の専門委員会（※）に所属する委員から、委員会の活動内容や、ご自身の法人・施設・事業所でのホットな話題、新しい取り組み、他施設に教えたい情報を伝えるページです。

社会福祉法人三宅島あじさいの会　特別養護老人ホームあじさいの里　施設長
災害対策検討委員会　委員長　染谷　一美

水害対策のハンドブックを作成中

昨年は台風 15 号、19 号に象徴される豪雨、強風による様々な被害や影響により、ご苦労、ご尽力されたかと存じます。又その影響が現在も残りご対応されている事業所もあるかと存じます。私たち災害対策検討委員会では今年度の活動の大きな柱として、３月発行に向け（仮称）水害対策のハンドブックを作成中です。

委員会は分科会推薦枠４名、ブロック推薦枠 14 名、委員長推薦で２名の 21 名の委員会となります。昨年 11 月８日の委員会では、出席者全員の委員から台風被害とその影響の情報共有を行うなか、その特徴から以下に大別され、ヒアリングを行うことになりました。

1）　床上浸水（利用者避難あり）　…青梅
2）　同一区市町村内で複数施設が断水　…奥多摩の５施設
3）　施設の孤立　…日の出町
4）　公共交通の計画運休と地域住民の避難…江東区

台風19号と2015年の常総市での被災事例を掲載

ヒアリングは施設だけでなく地域の社協にもご協力をいただき、委員を代表して高橋アドバイサー等にご尽力いただきました。高橋氏は練馬区役所で防災課係長等として従事され、現在 (株) 防災都市計画研究所シニアコンサルタント等でいらっしゃいます。氏にはわかりやすさと記事の解題にご協力頂きます。また 2015 年９月９日の記録的な大雨で鬼怒川の堤防が決壊し常総市の筑水苑が浸水しましたが、当時の施設長の報告も掲載いたします。

様々な事業所の方や外国人従事者の方々にも手にとって頂きやすいように誌面を工夫いたします。

支援している施設への支援

印象に残る委員の発言をご紹介します。孤立した被災施設に近隣施設が「何が必要ですか？」ではなく、「〇〇できますよ」と声をかけ、洗濯物の対応や職員送迎の運転手やクルマを支援されたとのことです。すると今度は、支援している施設が厳しくなるので、支援する施設への支援が必要ではないか？との意見が出され、新しい気づきとして学ばせていただきました。

※制度検討委員会、経営検討委員会、施設管理検討委員会、利用者支援検討委員会、人材対策委員会、災害対策検討委員会の6つの委員会の総称。各委員会には都内各地域の高齢者福祉施設より 20 名前後が委員として集まり、それぞれのテーマに沿った協議や研修会の開催等を行っています。

TOPICS 養護分科会

養護老人ホームでの互助への取り組み

●社会福祉法人東京弘済園
弘寿園　生活相談員　澤登（さわのぼり）　岳彦（たけひこ）

▶利用者の重度化、業務量増加◀

養護老人ホームの現状として、利用者の重度化により、業務量が増加している施設が多くあると思いますが、当園でも同様に、利用者の介護、支援に多くの時間を要しています。特別養護老人ホームが基本的に介護度３以上でないと入所できない現状を考えると、地域社会で養護老人ホームに求められる事は多くなってきているのかと強く感じます。

落ち葉掃きのボランティア

▶互助への取り組み◀

利用者の重度化、業務量の増加が進んでいるため、当園では利用者の皆様にそれぞれの方ができるお手伝いをして頂けるように声をかけ、ご協力をお願いしています。

主な内容としては、ご自身でお膳を下げられない方の食事の下膳や急須配り、落ち葉履き、共用部の掃除機かけの他、他施設での掃除やドライヤーかけ等です。また、歩行に不安がある方には、洗濯物畳みなどのできることを行って頂いています。

ドライヤーかけのボランティア

このような取り組みは、職員の手助けになる事はもちろんのこと、生活リハビリや利用者同士の交流、支え合い、自己の有用感へと繋がっています。

今後も自立支援だけではなく、一緒に生活する仲間として、お互いに助け合う仕組み作りにも力を入れ、いずれは地域でもその能力を発揮して頂けるようになればと考えています。

TOPICS 軽費分科会

ルミエールふるさとの取組み

●特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会
都市型軽費老人ホーム　ルミエールふるさと　施設長　玉腰　勲

▶４つの取組を柱に◀

「ルミエールふるさと」を運営する「自立支援センターふるさとの会」の活動は、①安定した住まいを確保するための「居住支援」、②地域で安心して暮らし続けるための「生活支援」、③地域の中で仲間をつくり役割を得るための「互助づくり」、④人生の最期まで孤立せずに生きることを支える「在宅看取り」の４つの取組を柱にしています。

そのために、地域生活支援センターや日常生活支援を行う施設などを展開してきましたが、当施設はふるさとの会唯一の都市型軽費老人ホームとして、2011 年から地元オーナーや行政の支援を受けて運営してきました。

都市型軽費老人ホームは、街なかで身寄りのない低所得者が入所できる施設として地元新宿区民の方々に利用されています。入所前の面談では、身体が衰えてきたとはいえ、馴染みの地域から離れたくないという思いを多くの利用者から聞いてきました。

▶疾病や認知症などの障害を抱えても暮らし続けるために◀

入所後も高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）等の関係機関との連携が欠かせませんが、ルミエールふるさとでは利用者同士が支え合う関係性の支援も大切にしています。たとえば、年に４回実施する防災訓練では、避難困難な人は誰か、その人と一緒に避難するためにどうするかを話し合って、各人の役割を決めていきます。このように互いに声を掛け合い、支え合う関係があってこそ、地域への思いをもって生活できるのではないかと考えています。

TOPICS センター分科会

ボランティアは たんぽぽのように

●高齢者在宅サービスセンター西新井　平石　アヤ

当センターでは、年間を通じて延べ 1000 名以上のボランティアが活動されています。

10 年以上も活動を続けている方もあり、私たちにとってはかけがえのない存在です。

私はボランティアコーディネーターを続けている中で、ボランティア活動は一つの活動に止まらず、多方面に役割を広げてもらいたいと思うようになりました。

A さんは、退職後「自分でもできる事はないか？」と飛び込みで相談に来られ、囲碁・将棋の対戦ボランティアをお願いしました。その後、行事や園芸の活動へと幅が広がり、今では、介護予防教室のボランティアや地域サロンの自主活動など活躍の場は広がりました。

B さんは、デイサービス（以下デイ）の利用者から始まりましたが、“就労する”というリハビリ目標の達成に向けて取り組まれました。デイ以外をボランティアの一つと定め、その中で就労内容に近い作業を続け、通勤に必要な公共交通機関の訓練を受けました。

今では、デイを卒業し、当センターへの就労が決まり総務部で忙しく働いております。

ボランティアがたんぽぽのように、ボラ畑から風に乗り、地域に根を張り花を咲かせています。当センターのボランティア活動を出発点として、人と人をつなぎ、地域に役割を広げてもらうことが、私の責務だと思っています。

東京ケアリーダーズ

Tokyo Care Leaders

活動紹介 No8

私達、こんな活動してきました！

11月30日東京家政学院大学にて、「東京の介護ってすばらしいグランプリ ランチ部門」の審査会が行われ、私たちケアリーダーズも微力ながらお手伝いをしてきました。

今年で3回目のランチ部門ですが、今回は「冬の食卓」をテーマに9つの施設が日頃の努力と工夫の凝らした料理を振る舞いました。

限られた時間の中でしっかりと下処理がされ、安心して食事が出来るよう配慮がされていました。どの料理も見た目が美しく、食事のなかで利用者の方が季節を感じることができ、毎日の食事が楽しめるようにという作り手のメッセージを感じることができました。

調理した方にインタビューをさせていただく機会があり、お話をした中で利用者の方が食べたいものを安心して食べてほしいという思いが多くきかれました。

私たちも試食をさせていただき、調理した方の思いを感じることができ胸が熱くなりました。

普段、調理現場をみる機会というのは中々ないのですが、今回の審査会において様々な分野から介護者の生活を支えているということを再認識させてくれる良い経験となりました。

東京ケアリーダーズ facebook

毎週更新中！

社会福祉法人アゼリア会　あかね苑
東京都高齢者福祉施設協議会　　荒井　裕介

TOPICS
職員研修会

●ケアマネジャー研修委員会　委員長
（社会福祉法人池上長寿園　経営本部　経営企画課長）　大川　直人

研修の企画・立案、運営を通じて考える、ケアマネジメントとは

ケアマネジャー研修委員会の活動は、年４回の委員会、年２回の研修開催を基本としています。研修１回の開催につき、打ち合わせを兼ねた委員会を２回、上半期と下半期に開催するといった具合です。打ち合わせの中では、研修の企画、立案、運営について検討することはもちろんですが、研修テーマに沿って、自組織に当てはめた情報交換が行われることも少なくありません。個人的ですが、仲間の組織においては、どのようなマネジメント体制や方法がとられているのか、ケアプランの様式の工夫や他職種との協働のしくみは・・・など、さながらアセスメントをしているようです。不思議なことにこのような流れから自身の業務の気づきになるだけではなく、研修のアイデアが生まれてきます。

ケアマネジメントの多くは、対話によって可能となる

ケアマネジャーにとって求められるものの一つに「連携」が挙げられます。連携を可能とする要素はたくさんありますが、対話に注目してみると、なるほどと感じます。冒頭の話でもご紹介したとおり、気づきやアイデアは対話から生まれることが少なくないからです。

研修の企画、立案、運営を通じて、ケアマネジメントについて対話をしませんか？

私の心に残るエピソード

社会福祉法人　東京聖労院　特別養護老人ホーム　つきみの園
栄養課　長澤　茉莉

年末のイベント　蕎麦打ち会

私がつきみの園に勤めて６年、はじめの１年は食に絡んだ大きなイベントが多く、驚いたことを覚えています。

その中でも年越し、といえば蕎麦。給食委託会社の蕎麦打ち職人の方を招いて、蕎麦打ちの実演が恒例の年末イベントの１つとなっています。当初は職人１人の実演でしたが、パフォーマーがもっといたらいいのでは、という意見があり１年前から私も一緒に実演を行うこととなりました。

本番当日は、施設長の挨拶で年越し蕎麦の由来を説明し、蕎麦の実や打っている途中の蕎麦の生地を実際にご利用者様に触っていただきながら進行していきます。私がそばの生地を混ぜていると、蕎麦を以前に打ったことのある方に「ちょっと水を入れすぎちゃってるね」とアドバイスをいただきました。

後半の蕎麦を麺棒でのばす作業と、包丁で麺状に切る作業は職人サポートの元でご利用者様にも体験していただきました。皆さん真剣に作業され、うまくできて満面の笑みの方も。

ご利用者様に「知っている職員が実演してくれると、見ていて楽しいですよ」と声をかけていただきました。準備や練習は大変ですが、食を通じてご利用者様と繋がれていることに喜びを感じます。

はじまりの挨拶

集中してます

うまく切れました！

編集後記

今回の特集では「大都市東京の現状と介護現場の未来」と題し、大都市ゆえの問題点や課題、その解決策から見た介護現場の未来について綴られています。数字から見た人材採用の厳しさの中で、介護職として働く職員が高いモチベーションを持ち続けられるような職場環境を構築、給与や待遇面を改善して世間一般に浸透しつつある介護職のイメージを刷新するべく、魅力ある広報宣伝を行うことの重要性が問われていると強く感じました。

最後に新型コロナウイルスによる感染症関連の報道が連日流れ、皆様の施設でも様々な対応対策を講じていると思われます。人材面・職務面で厳しい中ですが、ご利用者の生命を守り、自身や家族を守るため、このウイルスが終息に至るまで一致団結して取り組んでいきましょう。

社会福祉法人大和会
愛生苑ケアハウス
施設長　平出　肇

アクティブ福祉

「東京の介護ってすばらしい！ グランプリ」表彰式イベントを開催しました！

2020 年 1 月 26 日（日）に「東京の介護ってすばらしい！グランプリ」の表彰式イベントが両国にある江戸東京博物館大ホールにて、開催されました。

当日は東国原英夫さん、落語家の桂歌春さんにスペシャルゲストとしてご登壇いただきました。また、東京ケアリーダーズによる「東京五輪音頭を踊ろう！ with 東京ケアリーダーズ」やイベントスタート前には、ミニコンサートも開催されました。

スペシャルゲストとして登壇された、東国原　英夫さん（左）と桂　歌春さん（右）

表彰式では、ホームページ・ランチ・メッセージ各部門の受賞者に表彰状が送られました。イベントの模様とランチ部門審査の様子は、高齢協ホームページに掲載予定となります。Facebook 等と併せて、ぜひご覧ください。

表彰式では各部門の最優秀賞・優秀賞・入賞が表彰されました

東京五輪音頭 with 東京ケアリーダーズと小池樹里杏さんのミニコンサートの様子

※本会事業に協賛いただた企業の広告を掲載しています。ただし、掲載広告については、情報提供のみを目的としており、本会が推薦等を行うものではありません。

発行●社会福祉法人 東京都社会福祉協議会　東京都高齢者福祉施設協議会　〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸１番１号 飯田橋セントラルプラザ５階
TEL 03(3268)7172　FAX 03(3268)0635　URL https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/